

令和4年



左から、明覚小学校長（座談会は食育主任の先生が参加）、豆田美咲栄養士、渡邊一美ときがわ町長、明覚小学校保護者の2名（主山主門さん、松井佳菜さん）。

皆さま、あけましておめでとうございます。

広報新年号となる今回は、『食と教育で選ばれる町ときがわ』というテーマについて、ときがわ町の町長、給食を考えている栄養士、子どもの様子を間近で見ている学校の先生、学校の保護者の方2名、合計5名の方にお集まりいただき、座談会を開催しました。

広報 皆さま、はじめに自己紹介をお願いします。

渡邊町長(以下、町長) 町長の渡邊です。本日、皆さんと食を中心にお話していただけるのは素晴らしいことです。どんな意見を聞きたいと思っていますので、本日はよろしくお願います。

豆田栄養士(以下、豆田) 学校給食の献立を考えている、栄養士の豆田です。町では今年で3年目、学校と協力して色々な取り組みを進めています。食と教育で選ばれる町ということで、給食の方にも力を入れているところです。よろしくお願います。

明覚小学校食育主任(以下、先生) 明覚小学校の食育主任をしています。豆田さんは3年目ですが、その前もときがわにいていただいて、ときがわの給食は今、豆田さんだからできたことが多いかと、学校として感じています。今年度の授業も、今までは給食前の10分程度だったのですが、今年度は1時間、ひとコマを全学年でお願いしているところです。子どもたちもだいたい意識が高まったかな、と担任からも話が出ていて、その働きがとてもありがたく、ずっといていただきたいです(笑)。

保護者さん、お願いします。
松井佳菜さん(以下、松井) 松井と申します。4年くらい前にインドから移住してきました。この素晴らしい町に住んでいます。娘が6年生、息子が3年生で明覚小学校でお世話になってます。うちは夫と私と、お米や麦や野菜を自分たちで作っているため、食というものにすごく興味があるし、食いしん坊な家で食べることが大好きなので、もってこいのテーマに呼んでいただいて嬉しく思っています。今日はよろしくお願います。

主山主門さん(以下、主山) ときがわ出身の主山と申します。息子が明覚小学校の4年生で、下の娘もそのまま行けば明覚小学校にお世話になります。ただ、息子のアレルギーが強くて、給食が食べられないんです。なので毎朝自分が弁当を作っています。自分は有機農業をやっている、実は11月に給食センターにさつま芋も出してました。給食センターや学校が、すごく忙しくされている現状を知っているの、うまく協力しながらできたらいいなと、農家として思っています。よろしくお願います。

本日はよろしくお願います。

『食と教育で選ばれる町ときがわ』

松井 「食と教育で選ばれる町ときがわ」というテーマについての町長の想いをお願いします。

町長 皆さまもご存じのとおり、町の総合振興計画の将来像は「人と自然の優しさにふれるまちときがわ」ですが、もう少し具体的なテーマがないものかと考えました。そこで、どうして「食」にしたのかということ、人類がここまで進化できたのは、「食」のおかげだということ。人は、火を使えるようになり、調理ができるようになり、消化のいい食べ物に食べることができて、脳に栄養を送れるようになった。この進化の過程で、脳がどんどん大きくなって、他の動物と圧倒的な差ができた。食というのは人間においてそれだけ大事なことです。現在でいうと、シニアの方は、フレイル、虚弱体質になりやすい。フレイル予防は、「食べる、歩く、しゃべる」。そして「栄養のバランスをよくする」。そこを整理すれば、健康で長生きできる。食はこんなにいろんな面で大事なのです。なので、「食と教育で選ばれる町」は、

時間をかけてでも実現したいテーマです。

松井 このテーマは、ほかの市町村ではあまり聞かない、オリジナリティのあるテーマだと感じます。皆さまはどんな印象を受けましたか。

主山 自分も、食も教育も大事だと思えます。最近では外から移住する方が増えていると思いますし、ときがわ町は特に、芸術家の方が増えているなど、多様な方を受け入れる土壌があると思うので、地元の方との融合が、そのテーマを膨らませるひとつの力になるのかな、と感じます。

松井 私も「食と教育」というのはすごく興味のあることなので、この2つで選ばれる町「ときがわ」という

のはすごく感動的でした。ただ、食と教育、これ自体も広い枠組みだなと感じますので、こういう食なのか、こういう教育なのか、ということをもう少し掘り下げて、もう少し具体的な内容もみんなでシェアできると、また素晴らしいと思います。

豆田 私は食べることも、もちろん給食も好きで、子どもの笑顔を見るのも好きなので、この仕事に就いたんです。それを町として掲げていることは、とてもありがたいし素晴らしいことだと思います。それに応えるように、私も給食に力を入れて、その取り組みを保護者や地域の方、外部の方にも発信していけるように、ネットのいろんな媒体を使って進めていきたいと思っています。



渡邊町長(写真右)と豆田栄養士(左)。